

# 高校野球部活動において生徒が獲得する非認知能力（社会人基礎力）についての基礎研究

松井克典（日本工業大学）

## 1 目的

高校野球部活動の目的が大会や試合における勝ちだけでなく、所属生徒の人間力の向上のためということが広く認知されている。その人間力の向上とはどのような要素で、どのくらい向上するのかを追求するために本研究を行った。今回、その人間力を非認知能力（社会人基礎力）と置き換え、所属生徒がどのような能力を獲得するのかを客観的に検証した。今後、本研究を基に高校野球指導や指導の在り方の指針とすることを目的とする。

## 2 方法

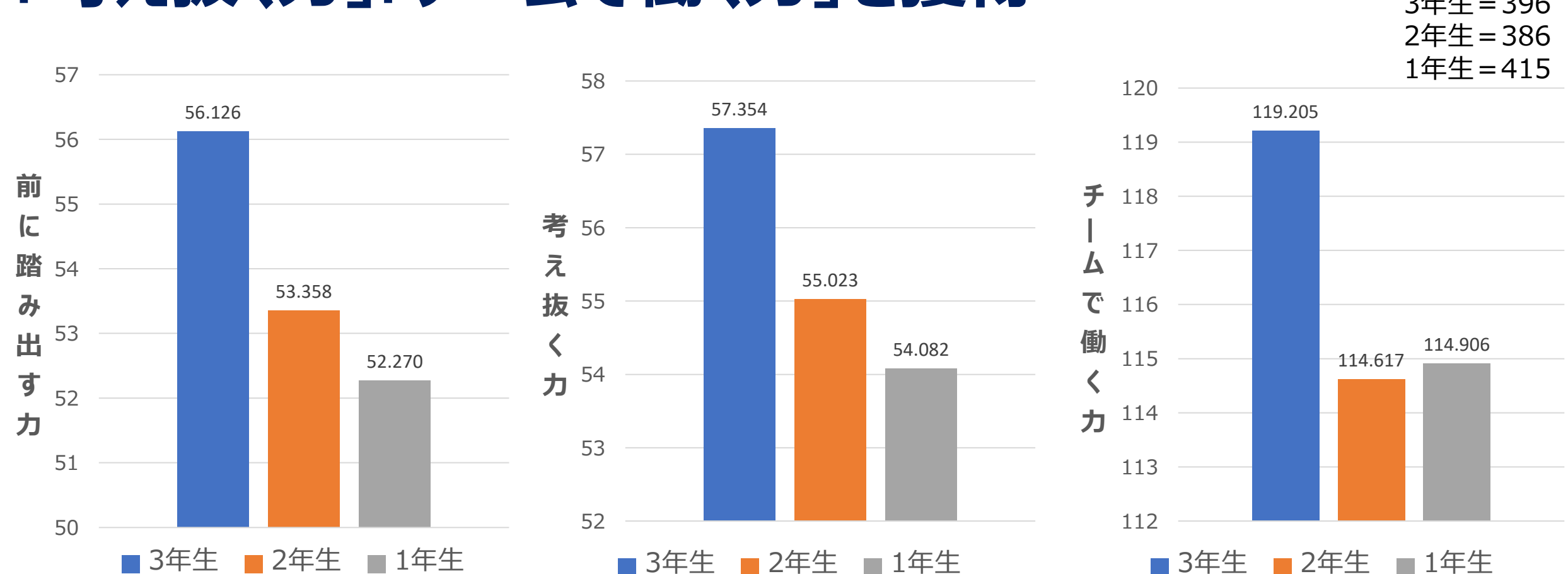
方法：アンケート調査による分析を行った。無作為に抽出した全国39校（公立27校、私立12校）の高等学校野球部生徒にMicrosoft Formsを使用して行った。調査内容：経済産業省が発出した社会人基礎力の3つの能力に基づく12の能力要素の観点からそれぞれ5つの設問（合計60問）を作成し、主観的5段階評価法で生徒が回答。（調査時期・2022年6月下旬～7月上旬）

回答数：2013名（有効回答数：1197名）

統計処理：全ての統計処理については、統計ソフトHADを使用し対応のない検定を用いた（一部正規分布が認められなかった点についてはマンホイットニーのU検定を用いた）。また有意水準は5%未満とした。なお今回の調査では非認知能力に経済産業省発出の社会人基礎力の観点を使用した。

## 3 結果

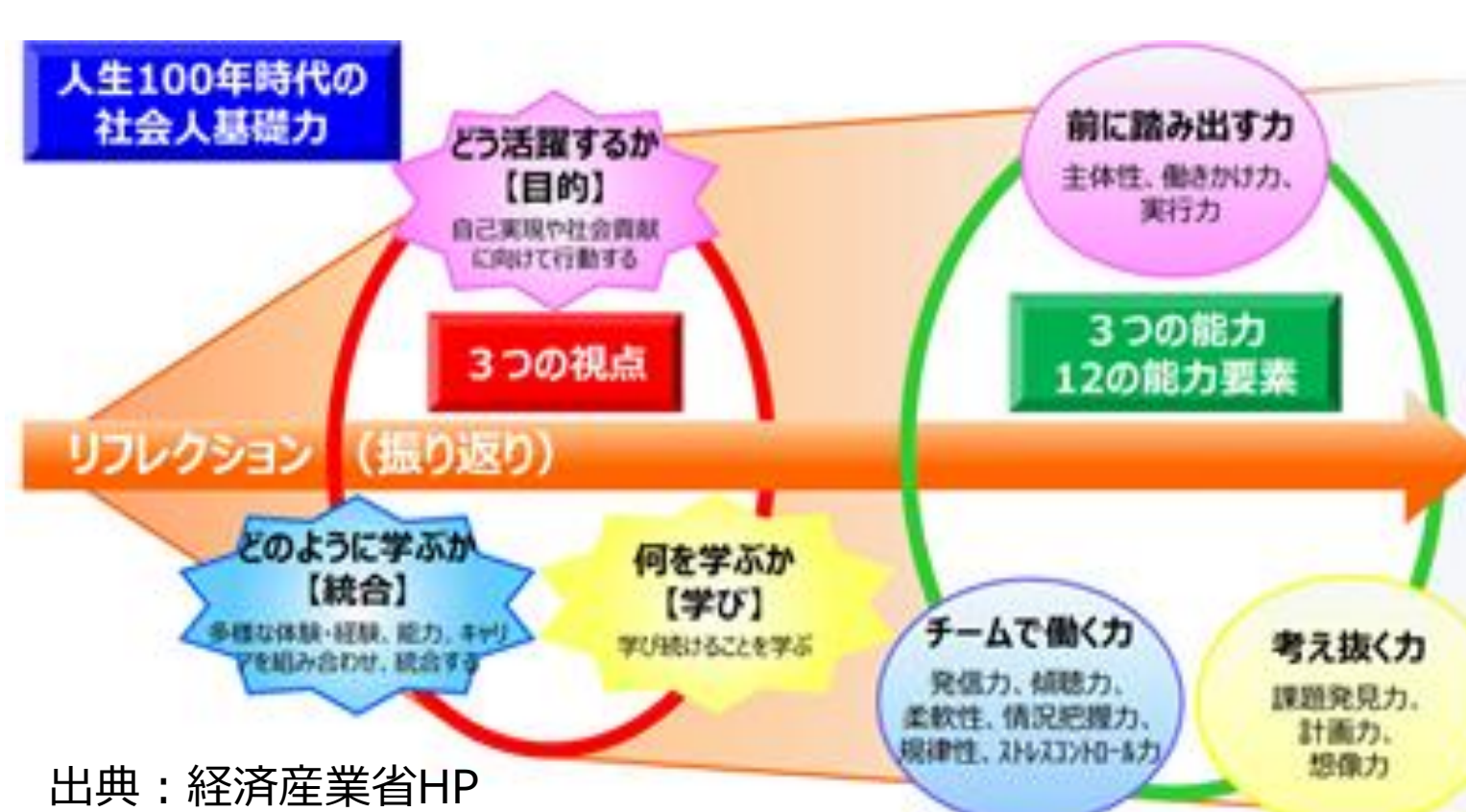
### ① 1年生→3年生、2年生→3年生で「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を獲得



※5段階評価法の「あてはまる」を5点とし、「あてはまらない」を1点とし算出。  
「前に踏み出す力」、「考え抜く力」→ 3つの能力要素×5つの設問×5点法 = 75点満点  
「チームで働く力」→ 6つの能力要素×5つの設問×5点法 = 150点満点

3年生、1年生 (順に「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)  
t(797.40)=6.58, p=.000 t(805.89)=5.44, p=.000 t(803.40)=4.18, p=.000  
3年生、2年生 (同上)  
t(778.59)=4.63, p=.000 t(779.89)=3.85, p=.000 t(779.59)=4.31, p=.000

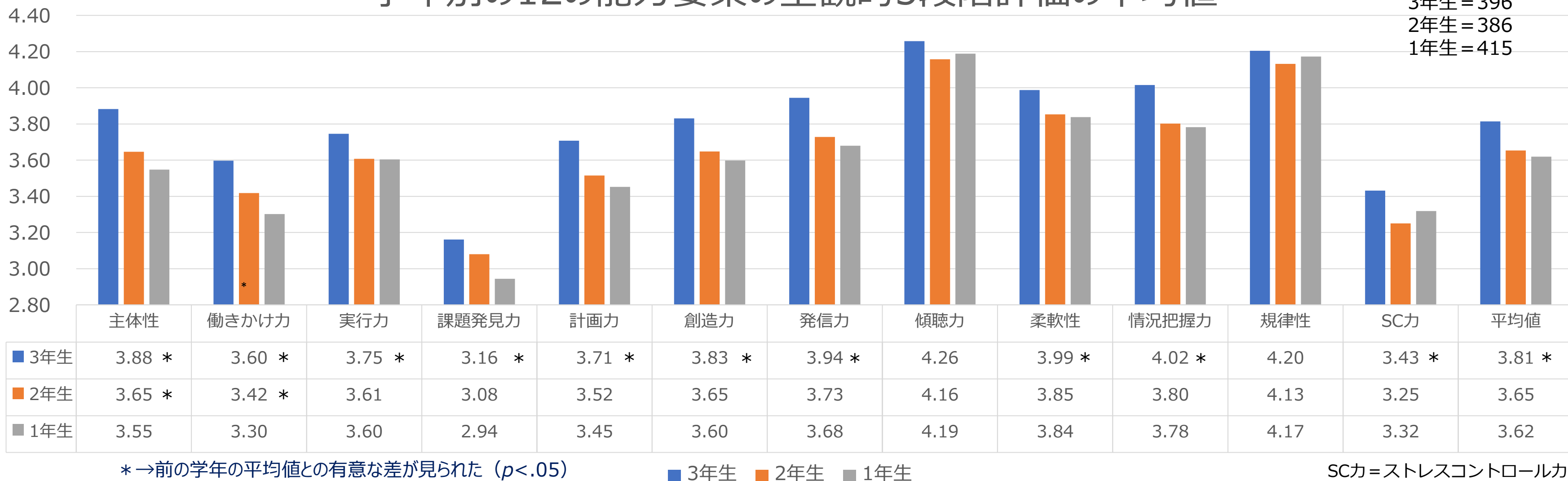
2年生、1年生 (同上) については有意差は認められなかった (p≥.05)  
t(794.14)=1.91, p=.056 t(796.97)=1.58, p=.114 t(790.07)=0.28, p=.780



社会人基礎力	
3つの能力	12の能力要素
前に踏み出す力	主体性、働きかけ力、実行力
考え抜く力	課題発見力、計画力、創造力
チームで働く力	発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力

【アンケート設問例】 あてはまる ( 5 4 3 2 1 ) あてはまらない で回答  
主体性→何事も自分のことと受け止め行動している  
創造力→既存概念やあたりまえ、前のやり方にとらわれず、自由な発想をしている

学年別の12の能力要素の主観的5段階評価の平均値



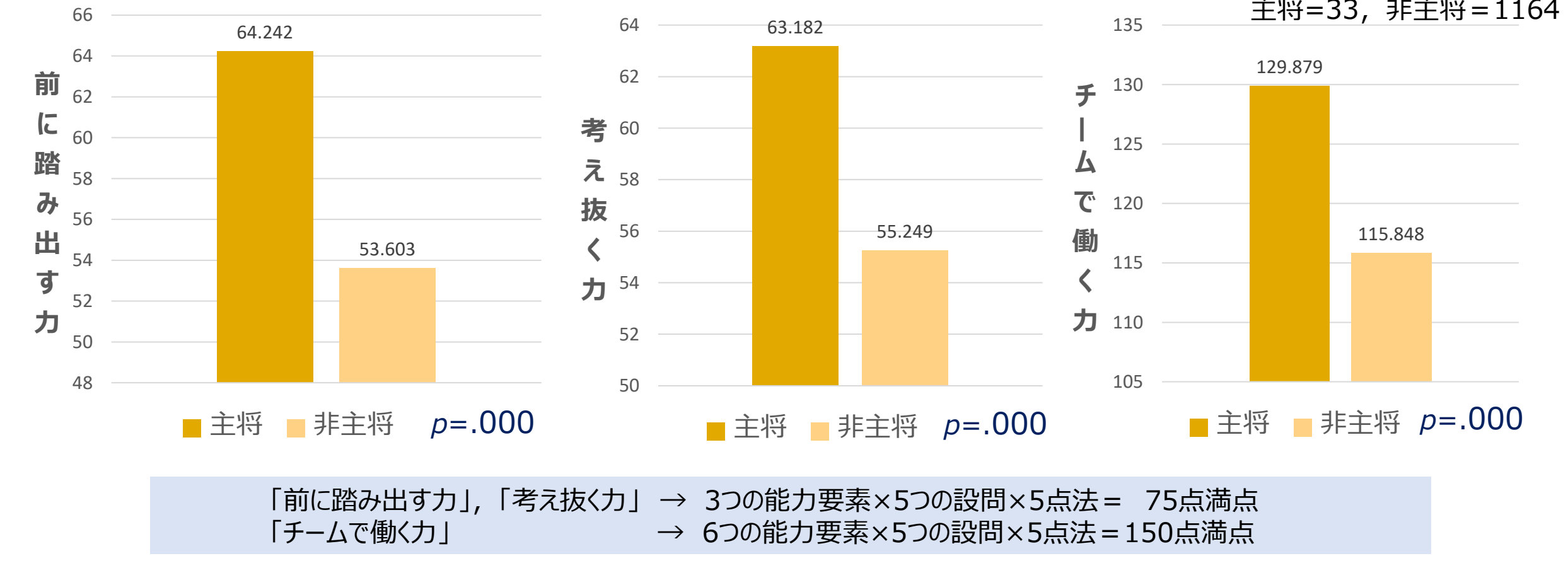
3年生夏  
「傾聴力」と「規律性」以外は  
有意に獲得される

2年生夏  
「主体性」と「働きかけ力」以外は  
有意に獲得されない

1年生夏  
「傾聴力」と「規律性」は  
備わっている傾向

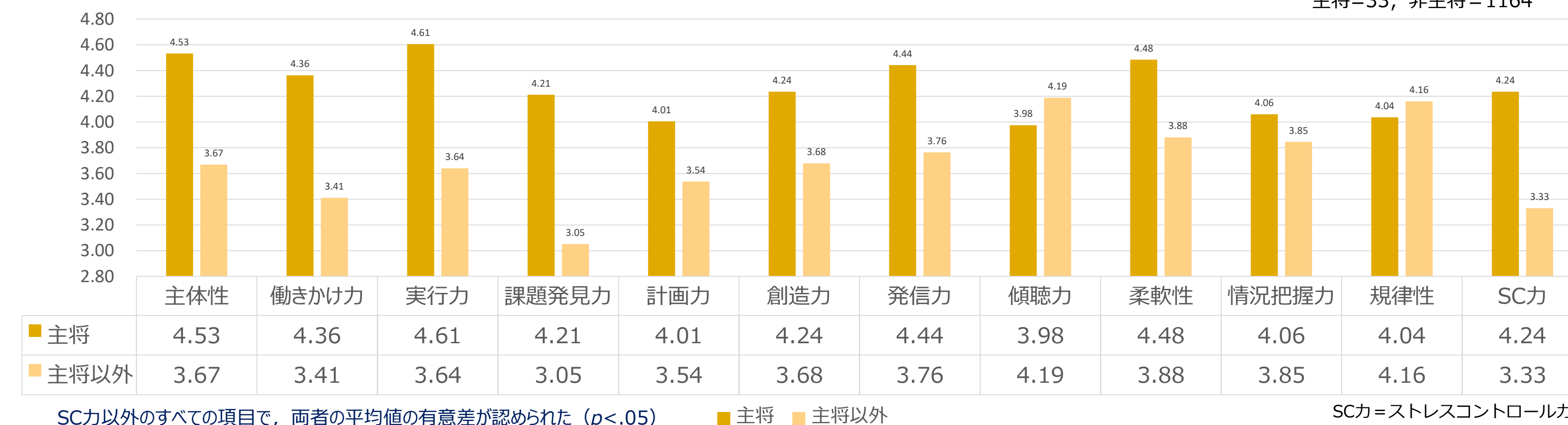
全体的に3年間通して「主体性」「働きかけ力」は有意に獲得 「課題発見力」が備わっていない傾向

### ② 主将は主将以外より3つの能力がすべて有意に高い

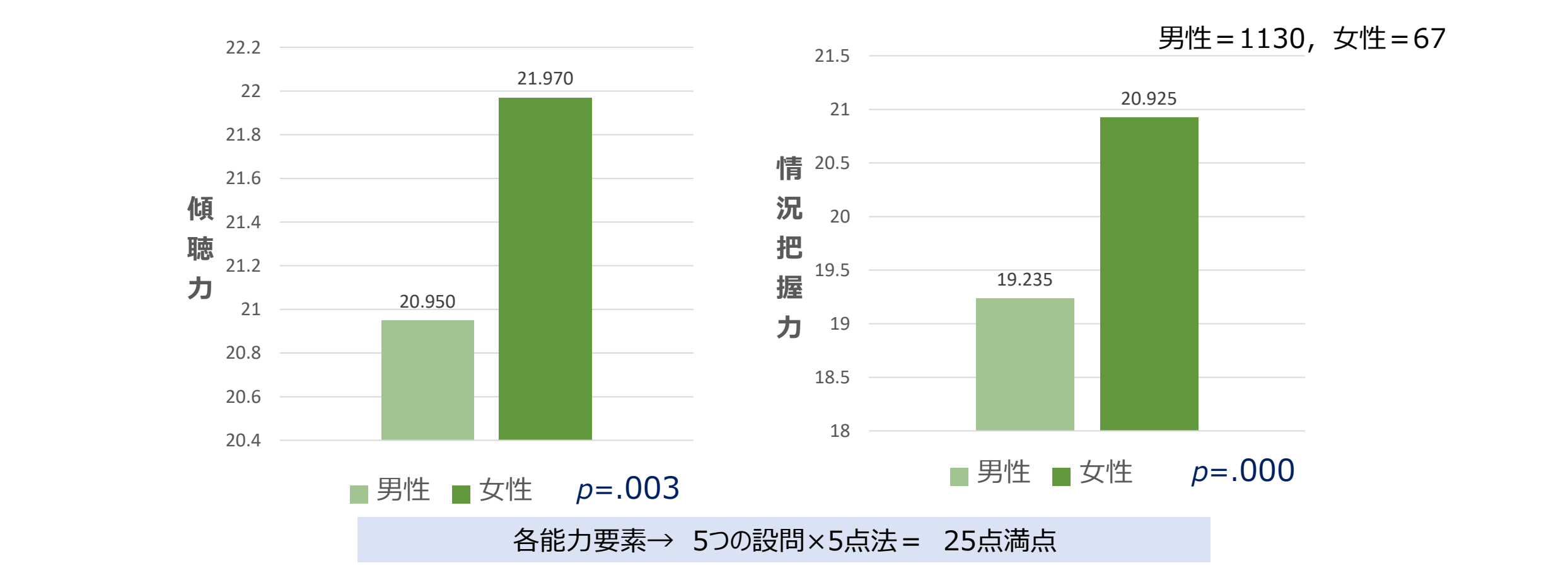


「前に踏み出す力」、「考え抜く力」→ 3つの能力要素×5つの設問×5点法 = 75点満点  
「チームで働く力」→ 6つの能力要素×5つの設問×5点法 = 150点満点

主将・非主将の12の能力要素の主観的5段階評価の平均値

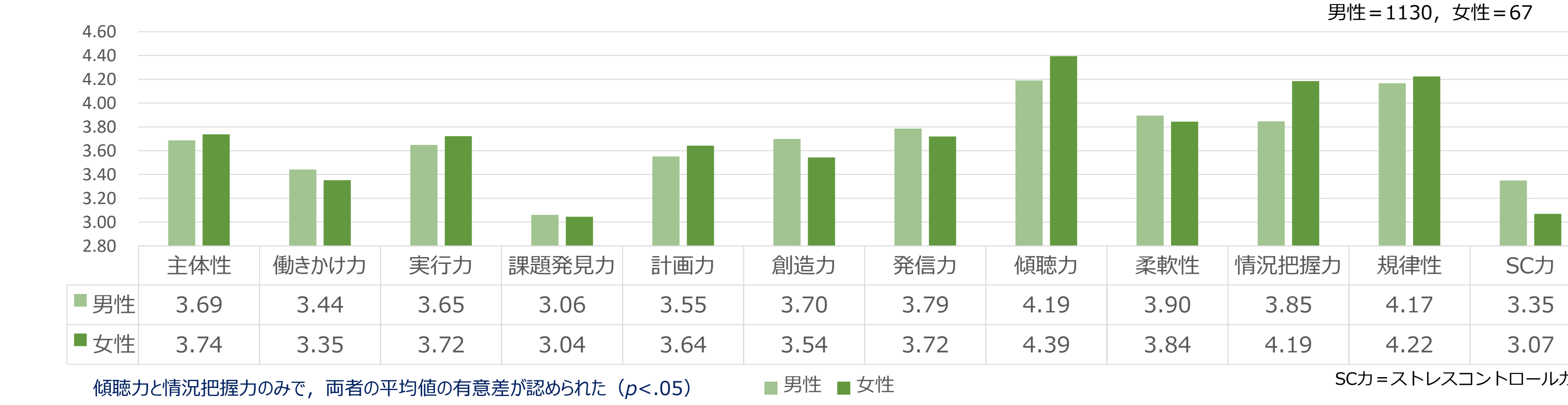


### ③ 女性は「傾聴力」「状況把握力」が有意に高い



各能力要素→ 5つの設問×5点法 = 25点満点

男性・女性の12の能力要素の主観的5段階評価の平均値



## 4 考察

- 非認知能力（社会人基礎力）の獲得については、3年生の3つの能力の獲得状況は1年生のそれより有意に高い、また2年生のそれは1年生との有意差が認められないことから、3年生夏（引退）まで活動を続けることによって非認知能力の獲得に有用であるということが分かった。
- 主将は主将以外の生徒に比べ3つの能力のすべてが、また女性は男性に比べ能力要素の「傾聴力」「状況把握力」が有意に高いことが分かった。
- 12の能力要素のうち、全体的に「課題発見力」に乏しい傾向があることが分かった。
- この結果は、異年齢集団の中での野球部活動において様々な立場や環境での経験の積み重ねによると考えられる。指導上これらの観点を加味し指導にあたる必要がある。
- 今後は、部活動非所属者や他の部活動の生徒の獲得する非認知能力との比較、またどのような環境下で非認知能力が獲得されるのかなどを追求していくことが課題である。

謝辞：本調査に協力して頂きました全ての学校、生徒、指導者の皆様へ謝辞を申し上げます。